

# 学園だより

平成29年4月1日発行

第84号

## 体験から学ぶ



校長 深江 政美

今年、一月と二月に大寒波が南下してきました。大雪に見舞われた地方の様子テレビに出ていましたが、夜半からの雪で当地でも積雪が残り残りました。降雪の少ない北九州ですが、昨年

も、一晩だけでしたが、雪が積もりました。その影響で、簡易温室に入っていた胡蝶蘭が寒さのために枯れてしまいました。

南国の花で、物珍しさもあって、二年前から管理方法を専門書で調べて育てていました。水やりも簡単で、多くの肥料も必要ないと書かれています。花の時期は長く、一か月以上は綺麗に開花しています。しかし、早く咲いた花から順に、だんだんと勢いがなくなってきました。

せめて、花の咲いている間はと思い、乾燥状態に応じて全体に霧吹きで水をかけていたところ、茎の途中から新たな花芽が出てきて、新旧二か所に花が

興味を魅かれ、更に専門書を調べているうちに、花の自生地に行ってみたくなり、台湾へと旅立ちました。

日本では鉢に整然と植えられた姿しか見受けませんが、現地では、大きめの木の枝に胡蝶蘭が絡み付いていて、意外な姿に驚きました。根は私たちの思う、水分を吸収するためにあるのではなく、枝にしっかりと体を固定するためにあるように感じました。

木の高い所の葉が適当に南国の強い光を遮ってくれますので、「直射日光には当てない様に」との注意書きの理由も、目の前の自然から教えられました。

現地では、時々スコールが降ります。「水やりは時々スプレーで全体」と説明書に書かれていたことも自ずと

うなずけました。

現在は、映像技術が発達して、家に居ながらにして未知の世界を目のあたりにすることが出来ます。しかし、旅に出れば、実際の世界に接することになります。目で見るだけでなく、耳や鼻など五感全部に、圧倒的に迫ってくる現実として体験することになります。そこで得られる体験や感動はその後の皆さんを形作るバックボーンになるかもしれません。

最初の詩はその次には、歳歳年々人同しからずと続いていきます。

私たちは常に明日を目指して、進歩していかなければならないと、訴えているような気がしています。

## 学事報告

平成二十八年

### 九月

- 2日 就職対策面接セミナー1(3年)
- 8日 就職対策面接セミナー2(3年)
- 15日 前期試験開始(1年)
- 23日 前期試験開始(2年)

### 十月

- 1日 後期開講
- 26日 学内献血協力

### 十一月

- 5日 開校記念日
- 9日 全学年体育大会
- 12日 推薦入学試験
- 25日 卒業アルバム写真撮影(3年)

### 十二月

- 10日 AO入試A日程
- 13日 国家試験受験願書作成(3年)
- 21日 2年生ゼミ研究発表会
- 22日 第42回医専祭(学友会)

平成二十九年

### 一月

- 12日 先端技術特別講義開始(2年)
- 16日 卒業試験(3年)
- 27日 第1期入学試験

### 二月

- 6日 卒業再試験(3年)
- 15日 後期試験開始(2年)
- 16日 後期試験開始(1年)
- 17日 AO入試B日程
- 22日 第63回国家試験(3年)

### 三月

- 3日 第II期入学試験
- 7日 第41回卒業式・卒業祝賀会(3年)

# 教官室から

## 技術進化の行く末は…



教官  
山縣 数弘

医療分野、とりわけ検査にかかる時間や診断精度は、用いる検査機器の処理能力に依存する。言い換えれば機器に搭載されている演算装置（CPU）の処理能力である。

超音波検査機器も、開発当初は反射音を線で表しただけのAモードから、やがてCPUの飛躍的な処理能力の向上もあいまって、臓器の形を描出できるBモードが開発された。さらに1描出、1画像ではほぼ静止画状態であったものが、1秒間に30フレーム以上の動画による描出が可能になった。私の学生時代はようやくこのBモードエコーが医療用に使用され始めた頃と記憶している。今ではプロンプも小型化されているが、当時は別名「弁当箱」と呼ばれるくらい大きかった。あれから三十数年余りの間に、カラードプラーや3Dエコーなど当時では考えられな

い検査が可能となった。当然、多くの検査技師が機器を使いこなす技術向上に努力したからこそなのである。

NASAが月面着陸を成功させた当時のコンピュータは今のスマホ1台分以下らしいが、さらに量子コンピュータなるものが実用化されつつあるらしい。現在のコンピュータは0か1のどちらかの値しかとれないが、量子だと0と1の値を同時に持つことができる」と説明されている。これだとただかたか4ビットだけで理論上は24日かかった検索もわずか24分で終わる。大規模量子コンピュータが実現すれば、現在最速のスパコンで何百万年もかかる計算を数ミリ秒でこなすという。ただ量子ビットの操作は簡単ではなく今までは、火星への有人宇宙旅行よりも難しいと見なされていたようだが、現実になれば人の生活は激変することは間違いない。しかし、例えばどんなに難解なパスワードを作ったとしても一ミリ秒もかからずに破られてしまったら、機密性など存在しない世界になってしまいます。技術革新もいいが、人間的な部分が失われかねないという危惧するは早計か。

## 眼鏡



教官  
齊藤 由美

我が家には小学六年生の娘がいます。娘は目が悪く、小学一年の二期から眼鏡を使用しています。目は毎年悪くなり続け、眼鏡も四個目になりました。最近また見えにくい旨言い出したので、そろそろ五個目を作る時期かなと思っています。

眼鏡も三回作り直すと子供ながら良し悪しが分かるようで、前回のフレームも一年位しか使っていないので、金額的な節約も兼ねて「レンズだけ入れ代えてもらおう。」と提案したら、娘の意見は「今の眼鏡は、鼻あての部分がフレームと一体化したプラスチックで軽いし、しかも柔らかくて痛くならないからフレームは新しい方がいい。」という事でした。生まれてこの方眼鏡を持ったことがない私には眼鏡の奥の深さというか、子供でも追求し

ている事に驚くと共に我が子の成長を感じる会話でした。

先日、私もとうとう眼鏡を作る機会を得まして、娘を従えて眼鏡を作りに行きました。

眼鏡にはこだわりのある娘に薦められたフレームを購入し、私の眼鏡は完成しました。使い心地も良く気に入っているのですが、この原稿を書くにあたりじっくりと自分の眼鏡を観察してみると、鼻あてはよくあるタイプの鼻あてでした。「あれ・・・娘のこだわりの取り入れたかったのに・・・」結局は娘も「見た目重視」だと言った事分かりました。複雑な気持ちにはなりませんが、私に似合うフレームを娘が頑張って選んでくれたという部分をクローズアップして喜んでみる次第です。

皆さんも家族や友人との遣り取りの中で納得しにくい複雑な気持ちになることはあると思いますが、その中でも嬉しいとか楽しいとか思うことは一つ位あると思います。物は考えようですから、良かったことの方を大きく見るようにしてこれから始まる新学期を楽しく過ごしていきたいと思います。

# 第2学年ローテーション実習

平成28年4月18日～12月15日

## 学内実習を終えて



山本 裕貴  
島根県立  
益田高等学校出身

最初、実習で大変だったことは実習でやった事をレポートにまとめて提出することであった。最初は面倒だと思ったが、実習をやっていくうちに楽しくなり、レポートを書くのが面倒にならなくなった。なぜなら、実習を振り返って、まとめて、それに追加学習もして知識が深まったからだ。一番楽しかった実習は生理検査学Ⅰ実習の画像検査である。

画像検査はプローブを被験者の体表面に当てて、プローブから放たれる超音波が臓器に反射する事によって、見たい臓器を白と黒の画像で描出する検査である。総胆管が閉塞していないかを確認するために、まず、右季肋部横走査で総胆管と固有肝動脈と門脈がミッキーマフスの形(ミッキーマウスサイン)を描出してからプローブを九十度に回転し、右季肋部縦走査で総胆管を描出する。しかし、そのミッ

キーマウスサインが見つかからず、描出することができず、かなり時間をかけていた。先生や友達にアドバイスもらい、グループメンバーと協力して学習した。さらに、一年生の時、解剖学で習った解剖図(門脈と固有肝動脈と総胆管がああゆつぷつに走行し、門脈と固有肝動脈と総胆管の奥に下大静脈がある。)ということを立て的に頭に浮かべてやってみたらミッキーマウスサインを見つけたことができた。嬉しさとともに画像検査に興味を持った。一年生でやった基礎的な知識が実習で役立つのだと実感し、画像検査だけではなく、ほかの検査にも興味をもち勉強するのが楽しくなった。

一年生の時、テストはその場しのぎでテスト前日に暗記して、テストが終わるとすぐに忘れていったのだが、実習を行うことにより、イメージしやすくなり、より理解を深めることができた。さらに、なぜこれを覚えなくてはいけないのかということがわかり、自分から勉強するようになり、習ったことがより忘れにくくなった。来年度は病院実習と国家試験があるから、それに向けて、意欲的に勉強し、国家試験を一回で合格出来るように、日々精進していきたい。

## 実習を終えて



吉田 佑香  
鹿児島県立  
錦江湾高等学校出身

二年生になりローテーション学内実習が始まりました。ほとんど座学ばかりだった一年生の頃とは異なり、四月から十二月まで血液検査学、微生物検査学、生理機能検査学Ⅰ、免疫検査学、一般・寄生虫検査学、生理機能検査学Ⅱ、病理検査学、生化学検査学の八つの実習を行いました。一年生の頃は、ただひたすら専門的な知識を頭に入れるだけであまり理解できていなく実際、臨床検査技師が現場でどのように仕事をしているのかということも分からないうままでした。

実習が始まると、初めはこの教科も内容が難しく着いていくのに必死でした。ほとんどの教科がピペットやメスシンダーなどの器具を使用するので慣れないうちは使い方が分からなかったり手が震えたりしていました。が、実習を重ねるごとにだんだん慣れできてピペット操作も上達しました。八つの科目それぞれに特徴があります

が、一番印象に残っているのは血液検査学の採血です。私が一番初めに実習した科目は血液検査学でした。血液検査学では、自分の血液を使用して実習を行っていきます。初めての採血はとても怖く正直したくないという気持ちがいっぱいで、また練習するものがない限り人体に針を刺すことはすくなく抵抗がありました。しかし、実習班の皆や先生のアドバイスやサポートのおかげで苦手な採血も頑張ろうと思えました。今回の実習は技術面だけではなくコミュニケーション能力も身につけたと思います。ピペットなどの器具を使用しない生理機能検査学では技術面はもろろん被験者さんとの接し方なども学ぶことができ、実習が始まるまで話したこともなかった班員ともたくさん話すことができ、お互い信頼関係を築けたと思います。

一年生の一年間は毎日実習がありレポートなどきついと思う面もたくさんありましたが、充実し楽しくてすくなくあっという間に過ぎていきました。三年生になると病院実習が始まります。今はただひたすら不安な気持ちですが、今後は学内実習で学んだ多くのことを活かして病院実習ではより多くのことを学び有意義なものにしていきたいです。

# 平成28年度ゼミ研究発表 (平成28年12月21日)

ゼミ研究発表会は、2年生が自分の希望するゼミに入り、指導教官の元、時間をかけて学術的研究を行った成果を発表する場です。これらは本校独自のユニークな取り組みで、将来就職した後の「研究能力」を育てることを目的としています。

## プログラム

- ① 輸血ゼミ ⇒ 「爪からの血液型検査法の検討」 9:10～9:30
- ② 生理Ⅱゼミ ⇒ 「若い肺を求めてⅡ ～君の肺は～」 9:30～9:50
- ③ 微生物ゼミ ⇒ 「健常人女性におけるB群レンサ球菌の保有状況と薬剤感受性  
～Streptococcus agalactiaeを探し出せ!!～」 9:50～10:10
- ④ 生理Ⅰゼミ ⇒ 「いざ!こうじょうせん!」 10:10～10:30  
- 休憩 -
- ⑤ 臨床化学ゼミ ⇒ 「ウレアーゼ・インドフェノール法の基礎検討 その2」 10:40～11:00
- ⑥ 一般ゼミ ⇒ 「ダニの検査についての基礎的検討2」 11:00～11:20
- ⑦ 血液ゼミ ⇒ 「血小板自然凝集能と血小板活性化マーカーとの関係  
～自然凝集とP-Selection・PDMPとの関連性について～」 11:20～11:40

### 1. 輸血ゼミ — 木戸真由子(他8名)

#### 爪からの血液型検査法の検討

「爪提供のご協力、よろしくお願ひします」、この言葉と共にゼミ活動が始まった。通常、ABO血液型検査は血液を用いた検査法であるが、血液以外の検査材料を用いることで骨髓移植前の血液型を知る手立てとして有用とされている。この方法には吸着解離試験と吸収試験の2種類あり、どちらが優れているかを調べるのが今回の研究目的となった。

最初は大人数での取り組みなので楽観的に考えていたが、得られる爪の検体量の少なさに驚き、また血液より抗原数の少ない検体であるため凝集度合の判定が難しく苦戦した。しかし、正解が解らないなかでの意見の出し合いや先生からの説明は、考える楽しさや集団での意思疎通の大事さを実感させてくれた。結果としては、吸収解離試験のほうが20～30mgの爪でも血液型の特定が可能であることが判ったことは偏に、爪の提供に協力して下さった方々のお蔭である。爪を用いた検査はゼミ活動ならではであったためとても良い経験になった。

### 2. 生理Ⅱゼミ — 門倉 知宏(他8名)

#### 若い肺を求めてⅡ

生理検査学Ⅱゼミは、肺年齢を若返らせるということを目的として活動しました。

肺年齢は、呼吸機能検査の中の努力性肺活量という項目の1秒量という数値からわかり、1秒量が増加すると肺年齢は若返ります。私たちは、1秒量を増加させるためにトレーニングや口すぼめ呼吸という呼吸法を実践しました。思うような結果が出なかった時もありましたが、トレーニング量を増やしたり、検査のやり方を工夫したことにより、1秒量を増加させることができ、中には肺年齢が10歳若返った人もいました。

私はゼミ活動を通して、思うような結果が出なかった時にどのように対処すべきかを学ぶことができました。呼吸機能検査を行う上で必要な説明と声掛けも、ゼミ活動を通して少しは上達したのではないかと思います。今回学んだこと、身につけたことをこれからしっかり活かしていきたいと思います。

顧問の高木先生には、たくさんのご指導をいただきました。ありがとうございました。

### 3. 微生物ゼミ — 平川 友梨(他5名)

#### 健常人女性におけるB群レンサ球菌の保有状況と薬剤感受性

微生物ゼミでは、女性のSagalactiaeの保有率を知るため、尿を検体としてβコロニーの確認、カタラーゼテスト、グラム染色、CAMPテスト、ランスフィールドB群の確認などを行いました。また保有検体に関しては、薬剤感受性試験でペニシリン系の薬が効くかどうかを確認しました。

妊娠中の女性がSagalactiaeを保有していると、赤ちゃんが母体の産道を通る際に感染し髄膜炎などを起こす可能性があること知られています。ほとんどの妊婦が検査を行うため産道感染を防ぐことができます。

今回ゼミ活動で行ったいくつかの検査方法は、木戸先生が丁寧に教えてくださり、また実習でも行ったことのある検査もあったため、手技において大変だと思ったことはありませんでした。しかし検体がたくさん集まらなかったことが少し残念でした。

実習の内容よりもさらに深く技術的にも知識的にも学ぶことが多くあって楽しかったです。このゼミ活動で学んだことを今後の病院実習などの際に役立てていきたいと思います。

### 4. 生理Iゼミ — 狩浦 萌乃(他4名)

#### いざ! こうじょうせん!

私が生理Iゼミを選んだ理由はエコーを苦手な分野から克服しようということでした。そうした気持ちで挑んだゼミの初日、ゼミ室に入ってまず驚いたのは人数の少なさでした。集まった人数は私を含めて5人。私は二か月間果たしてこのゼミでやっていけるのだろうかと不安でした。しかし、いざ活動をしていくと自分にとってプラスとなったことの方が多かったのです。活動内容は甲状腺の占拠腺病変の有無についてであり、その為に被験者を集めるのはゼミ員が少ない分苦労しました。ですが、そのぶん自分でエコーをし、調べる量が増えたおかげでより理解を深めることができました。エコーもかなりの数をこなしたおかげでいつしか自分の苦手を克服することもできていたのです。研究内容を作り上げていく中でみんなと意見を交換し合い、また1人1人の個性が強いのでぶつかることもありましたが、非常に良い経験をするのができたと思います。

### 5. 臨床化学ゼミ — 渡邊 瑛(他2名)

#### ウレアーゼ・インドフェノール法の基礎検討 その2

私は2年生のゼミ活動に臨床化学ゼミを選択しました。臨床化学ゼミでは、尿素窒素測定におけるウレアーゼ・インドフェノール法の検討を行いました。ゼミ活動はゼミ毎に課題を設定し、検討を行います。講義や学内実習と異なり、決まったカリキュラムを行うわけではないため、予測と異なった結果が出ることも多々あり、検討を進めていく中で行き詰ることもありました。しかし、その度に斉藤先生の助言をもとにゼミメンバーで意見を出し合うことにより、様々な角度からアプローチを試みることで、先に進んでいくことができました。

一人では成し得なかったことも皆で協力することで実現できた経験は、医療従事者として働いていく中でチームワークの重要性を再確認する良い機会であり、今後病院実習や国試対策の中で困難な場面に直面していくかもしれませんが、今回ゼミ活動を通して得た経験を糧に頑張っていきたいです。

### 6. 一般ゼミ — 塚山明日香(他2名)

#### ダニの検査についての基礎的検討2

一般検査ゼミでは、生活環境中からのダニ採取と検査法について研究しました。一定期間、部屋のあらゆる場所に放置したお好み焼き粉から、150μmのメッシュを用いてダニを捕集しました。ゼミ員が3名しかいなかったため、標本作成がなかなか進まず、時間がかかりましたが、普段は目視できないダニが実体顕微鏡で約20倍にするとはっきり捉えることができました。動いているダニを初めて見たときは興奮しました。何種類かのダニや卵をもったダニも見つかりました。その後ダニ図鑑を用いて同定を行いました。自然界に約2万種以上存在しているのですが、部屋の中にいるダニは約15種で、ヒョウヒダニ、コナダニ、ツメダニ、イエダニの4種が多く存在します。細かな特徴を観察し鑑別する作業も楽しく行えました。昨年的一般検査ゼミの発表を聞いた後すぐに、2年生になったらこのゼミに入りたいと思い選びましたが、一般検査ゼミを選んでよかったです。

# ゼミ研究発表

## 風景



## 7. 血液ゼミ — 西川 有葉(他5名)

血小板自然凝集能と血小板活性化マーカーとの関係  
～自然凝集とP-Selection・PDMPとの関連性について～

血液ゼミではこれまでに血小板凝集能の標準化のため基礎検討や他の検査との相関関係などの実験を行ってきましたが、今回は血小板自然凝集が血小板活性化マーカーであるP-Selectin (P-Sと略) および血小板由来マイクロパーティクル (Platelet Derived Micro Particles : PDMPと略) との間に関連性があるのかについて検討を行いました。

対象は本校学生血液型別計24名 (ランダム抽出) および教職員9名で、その結果はランダム抽出学生の血小板自然凝集陽性者は2名 (陽性率8.3%)。学生のP-S平均値は14.98ng/ml、PDMP平均値は9.24U/ml。教職員の自然凝集陽性率は66.7%、P-S平均値は16.13ng/ml、PDMP平均値は7.35U/mlでした。

考察としては、血小板自然凝集陽性率の高い教職員に於いて、平均値がやや高かったP-Sと自然凝集との間にやや相関を認める傾向を認めました。また、採血を自分たちで行い、求めたデータから血液型との相関や年齢との相関などを話し合うことで楽しく、やりがいがあるゼミだったと感じました。



# 学友会

12月の医専祭は学友会活動のおおきなイベントの一つです。

## 学友会会長 久我紗也華

長年の学友会活動の経験者

今回、私は会長として医専祭の運営に携わることができました。先生から学友会に医専祭についてのお話があり、私達の仕事が始まりました。それから実際に医専祭に向けて私達は計画を立て始めましたが、思うように事が進まないこともたくさんありました。去年の医専祭では、先輩方が主体となり私達は運営の手伝いをする機会があったため、同じようにやればできるだろうと安易な気持ちでしたが自分達が主体となって行ってみたい先輩方の大変さを身に染みて感じました。限られた時間の中で予算を組むことから始まり、イベントの発案やそれに必要な物の買い出し、しおりの作成など学友会のメンバーが協力し合って準備を進めていきました。そして医専祭の当日、多くの人達が楽しそうに過ごしているのを見ることができ、それまでの苦労がなくなるぐらいやり切ったという充実感を得ることができました。このような貴重な経験をするのができて良かったと思います。そして最後に、医専祭を行うことができたのも学友会の力だけでなく、先生方や事務の方々、教務の方々そしてクラスメイトのご協力があったことだと思います。ご協力いただいた方々本当にありがとうございました。



## 学友会会計 中村 仁弥

長年の学友会活動の経験者

医専祭は忙しさもありましたがとても楽しい思い出です。今年も学友会として活動しました。去年は先輩方が中心でまとめてくださり私は少しお手伝いする程度でした。しかし、今回は2年生の私たちが主体となり計画や準備などをしました。プログラムにいれる早食いはどんな食べものにするか、ビンゴ大会の景品をどんなものにするかみんなが楽しめるように企画を考えました。当日は、計画したものがうまくいか不安もありましたが、出店をしてくれたり教室がカラオケでにぎわっているのを見てとても嬉しくなりました。早食いは男子の部と女子の部があり女子の部が出場してくれる人が出てくるから心配でしたが5人も出場してくれて面白くなって良かったです。ロシアブルーレットでは一口サイズのシュークリームにわからないようにからしを入れるのが難しかったです。ビンゴ大会は教室に一番多く人が集まり医専祭の目玉だと実感しました。私は今年もリーチどまりで残念でした。先生方やみんなのおかげで医専祭が楽しくなりました。ありがとうございました。1年生の学友会がないので、イベントの経営に興味のある方は学友会へ。

写真は、平成28年12月22日の第42回医専祭でのスナップ写真です



## 学友会書記 梶 瞬季

長年の学友会活動の経験者

私は去年から学友会の一員として、医専祭の運営に携わってきました。去年は先輩方が主体となって進めていただきましたが、今年は私たちが主体となって計画していきました。はじめはとても不安でしたが、当日には、無事医専祭が成功できて良かったです。医専祭では、カラオケ、レモン早食い、ロシアブルーレット、女装コンテスト、ビンゴ大会を企画しましたが、どの企画の盛り上がりも期待以上でした。特にレモンの早食いは、事前に自分で試して酸っぱさを経験した企画だったため、男女ともに出場者が5~6人居たことを、心嬉しく思いました。また、出店が一つの教室に集まりすぎ、プレーカーが落ちてしまったときには、すぐに対処することができ、スムーズに医専祭を進行できました。準備は色々大変でしたが、医専祭が盛り上がり、無事に終わることができて、いい思い出になりました。来年の医専祭では、今年以上のものを作り上げて欲しいです。

## 学友会監査 野中 里菜

長年の学友会活動の経験者

私は学友会の一員として、医専祭の計画をし、準備、運営をしてみて、ゼミ発表の準備もある中忙しく大変でしたが、楽しく盛り上がりのあるものになりました。計画を立てるときは、余裕を持って準備をしたり買い出しに行くことが出来るようにと、三週間くらい前から話し合いをはじめ、どんなことをするか？どうしたら皆で楽しめるか？ということ学友会の皆で話し合いました。準備をするときは、会場の飾り付けや机と椅子を用意したり、お菓子や飲み物、ビンゴの景品の買い出しに行ったりしました。また、ビンゴの景品は自分自身が当たったら欲しい物嬉しい物を買いました。でも、ビンゴの景品は一つも当たらず、他人に当たってるのを見て、あの景品は自分が欲しかったと当たらなくて残念に思う反面、買って来た景品が当たって喜んでもらえて良かったという気持ちとこの景品を買って来て良かったと思う気持ちがありました。医専祭はじめてだった1年生も、2・3年生も楽しく参加することができたと思いました。

毎年、2年生を対象として臨地（病院）実習に出るに当たり、先端技術講義として各方面の医療関連企業や医療・保健に携わる現場の方々から貴重なお話をいただいています。以下に今回の講義の内容を記載しています。

# 先端技術特別講義（第二学年）

平成29年1月12日～2月8日

科目名・内容・(場所他)	講師名	講師所属
微生物検査 薬剤感受性試験MIC測定	光岡 聡	栄研化学株式会社
生理検査Ⅰ 血圧脈波検査について	田邊 耕一	㈱フクダ電子
日本赤十字社 九州ブロック血液センター見学 久留米市	日赤 職員	日本赤十字社
生理検査Ⅱ 血液ガス講義と実習	鈴木 大二	シーメンスヘルスケア ダイアグノスティクス株式会社
生理検査Ⅱ 睡眠時無呼吸症候群の検査について CPAP体験	森植 康貴	霧が丘つだ病院
血液検査 自動血球計算器の原理および実習	藤吉 章雄	シスメックス（福岡支店）
生化学検査 自動分析装置の進歩と技術	堤 竹人	東芝メディカルシステムズ株式会社
輸血検査 マイクロタイピングシステム	小黑 博之	バイオ・ラッドラボトリー



## 編集後記

2年生が1月に久留米の『日本赤十字血液センター』へ施設見学に行きました。その様子を今号に載せたかったのですが紙面の都合で次号までお預けです。血液センター内の設備・仕事内容を詳しく説明してもらい、更に熊本地震の時の緊急対応の記録DVDも拝見しました。余震の続く中、迅速な対応をしていく職員の様子から、日赤の危機管理力の素晴らしさを垣間見る事が出来ました。自分が出るベストな行動は人を救うことに繋がるのだと実感する内容でした。次号に学生の感想を掲載しますので楽しみに待っていて下さい。

校務主任 長 深江 政久  
 1年生担任 山田 隆文  
 2年生担任 相原 綾子  
 3年生担任 木崎 由美  
 教務 高松山 木戸 直徳  
 倉尾 裕典

平成29年度教務職員(教官室)

発行所  
北九州市小倉北区片野  
新町1丁目3番1号

編集責任者  
美萩野臨床医学専門学校  
後援会  
TEL(931)5201(代)

印刷所  
太平印刷株式会社  
TEL(671)3233(代)